

<p>&lt;研究課題名&gt;</p>	<p>RF-0907 (RF-097)</p>	<p>藻場の生態系サービスの経済的価値評価：魚類生産の「原単位」から「日本一」をさぐる</p>
----------------------	-----------------------------	---

<研究概要>

浅海域は魚類の「ゆりかご」（産卵・成育の場）として重要と認識されながら、その根拠となる科学的・定量データが存在しない現状は、早急に改善されなければならない。申請者等が開発した魚類の成育場における生産過程の定量評価手法にもとづいて、我が国の藻場における魚類生産過程とその変動に影響を及ぼす環境要因の広域的解析を実施する。

(1) 魚類生産による経済的価値の算出および広域的解析  
瀬戸内海中央部のアマモ場において魚類と餌料生物の定量採集および環境条件(水温, 塩分)の測定を定期的実施する。魚類の胃内容物調査とあわせて安定同位体比 ( $\delta^{13}C$ ,  $\delta^{15}N$ ) 分析により魚類生産に貢献する栄養源の特定を行う。フィールドで求めた優占魚種メバル類の生産速度を経済価値 (年間生産：円/ha/年) に換算する。

(2) 「至適生産環境」の特定および地球温暖化に伴う経済的価値の変動シミュレーション  
上記(1)の調査で得られる魚類生産速度および環境パラメータの広域データを用いて、魚類生産の広域的空間変動(南北差)およびその要因を解析する。  
物理環境(水温, 塩分, 流速, アマモ密度・葉長) および生物環境(餌料生物, 捕食者, 競合種, 魚類・ベントスの群集構造)を様々な立地条件のサイトから収集して魚類生産の空間変動解析に用いる。メバル等の優占魚種の単位面積あたり生産速度を既存資料に基づいて経済的価値 (円/ha/年) に換算するとともに、地球温暖化に伴う環境条件の変動により生じることが予測される経済的価値の変動予測を行う。

<p>&lt;研究代表者&gt;</p>	<p>小路 淳</p>	<p>広島大学大学院生物圏科学研究科准教授 (38才)</p>
----------------------	-------------	---------------------------------

No.	サブテーマ名		氏名	所属機関名・部局・役職名
(1)	魚類生産による経済的価値の算出および広域的解析	◎	小路 淳	広島大学大学院生物圏科学研究科准教授
(2)	「至適生産環境」の特定および地球温暖化に伴う経済的価値の変動シミュレーション	○	堀 正和	独立行政法人水産総合研究センター瀬戸内海区水産研究所 研究員